がポンポン州び出してくる。 客眼 のパカ役人ども」といったことは

なら水俣湾の魚ということに…」

出る。仕事はたくさん残ってる」 やめさせないとまだ次々に患者が

ー再等を求めたがダメだったーと
内容で「魚が腐敗する過程でアミニ湾の漁獲額止は解除してよい」と

る。戸木田教授の反論もほぼ同じの摂取量などを規定すれば、水俣

までまかり通ったのである。 行なわれたため、家庭の茶の間に

> 用されるものなのである。 ともすれば事実を曲げるために利

とのあと、引き続き、熊大の有

いうのが溶液教授の反論要目であ なアミンが原因だと思われる」と は早前である。実験によって有路 を含む工場層水によるという結論

種類や新鮮度、汚染度および一日 市民は発病しないのだから、魚の 中で「湖南から買って食べる一般

「パカなことを買うな。よその魚

が有選だと…」「いかん」「それ ととはできん」「では有明海の魚

の人だが、次第に語詞が激しくな る。「中央の御用学者」「厚生省

ととがない限り怒りを見せないこ

温原な紳士といわれ、よほどの

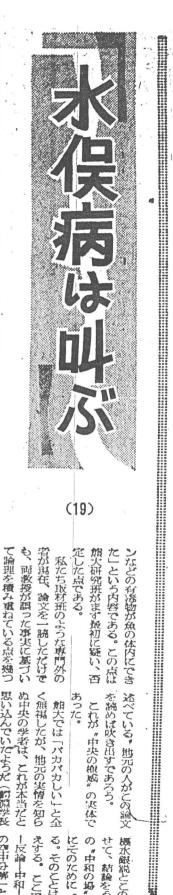
いが、魚に窓があると言ってほし えない」「どういう結論か知らな くれ」「答申する前はだれにも会

い」「魚は日本中にいる。そんな

とからそれが出るのかはわかって

が有機水銀とわかっただけで、ど の質に冷笑が浮かぶ。「まだ原因 いう辞令を渡された」一個淵学長

ない。問題はこれからだ。漁獲を



(19)

定した点である。

た」という内容である。との点は

ンなどの有海物が魚の体内にでき

加大研究班がまず最初に疑い、否

する前日(三十四年十月五日)の 曲けようったって、そうはいかんの反論が出てくる。清浦智作東京

る」一さわやかな初夏の微風が新

緑の香を選ぶ、厚

者たちに忘れずに、しっかりとな 職して もらいたい ことが 一つあ

機水銀。という結論を食品衛生関

「私たちが、水俣病の原因は有

査会(厚生省の諮問機関)に答申

大臣の権威で圧力をかけ、真実を とをちっとも考えとらん。次官や

中央の根威による、有機水銀説へ

い(取材班注=クロガイを取べて を食べて落病した人は現地にいた とのあと、セキを切ったように

いる点、清油数投)、またクロガイ

について検討したことを無視して

たとえば、加大がすでにアミン

した。しかし、その過程の中で、

けに燃えている。

鏡をかけたりはずしたり、

目が怒を持ってきても

水俣湾では

有窓に

いう。まだ患者が次々に出、病に

て論理を積み重ねている点を幾つ も、両徴授が誤った事実に基づい

思い込んでいたようだ(野猫学長)の空中分解」という公替の原因追 ぬ中央の学者は、とれが本当だと 一反論―中和―水俣病の原因追究 習が現在、論文を一読しただけで

私たち取材班のような専門外の

聞されたネコが踊り狂っていた扱

なるこ

「パカな奴らですよ。国民のと

中のことであった。

「館大は原因過究の責任を果た

G

氏(当時の解大学 學長室で解開館で さがりの顔本商士

長、食品衛生調查 公水侵食中落部合

ととです」一般類学長は、窓外に よ」一個旗学長は、冷えたお茶を「工業大学教授の"アミン説"、戸 一息に飲んで、またことばを続け

地区にも水銀を多く含んだ魚がい されてない。水艇も多くない。他 木田菊次東邦医大栗理学教授の 、腐敗物質説。である。 「水俣湾は他と比べて特によこ を食べた人は箔病せず、腐敗した う指摘(戸木田教授)、新鮮な魚 いる。朝らかな誤りであるーとい れなのに

館大は

クロガイから

水部 新務した人はたくさんいる)。 そ が出たから水銀が原因だと言って

よって、原因不明、へ押しつられ

『中央の權威』を借りた人たちに

目を向けた。

当時の高野厚生省食品衛生課長

の原因追究という

「それは、公会

い語詞で語る。 代表)は、きびし

ものが、いかに

いて、身をもって実感したことで れは私たちが水俣树の追究をして てしまうか、ということです。こ

えない」「それでは大臣に会って

うな答印をするのか」「それは国 が旅館を訪れた。「あす、どのよ

省に呼び出された。行ってみると

「答申を済ませた翌朝早く厚生

"水俣食中産部会を解散する"と

る。この魚を食べても水俣树は起

きない。したがって水俣府が水銀

という認識(同)一などである。

あまつさえ戸木田数授は論文の

は新聞、テレビを通じて花々しく

魚を食べた人のみが浴房している

ため、関心のある人たちだけにし に学会への論文報告の形をとった の話)。 そして触大の研究結果が、批単 でまかり通っている事実を記憶し 感。が私たちの目の届かぬところ り、中身は全くカラッポの「柏 究につきまとう一つの公式があ

と世度數据

述べている。地元の人がこの論文 機水銀脱ととの異説とをつき合わ せて、結論をうやむやにするため

を諦めば吹き出すであろう。 これが"中央の植版"の実体で

館大では「パカパカしい」 と全

く無視したが、他元の実情を知ら、えする。ととでは「有機水銀説」 る。そのととは次回で詳しくお伝 の『中和の場』が設けられ、さら にたのために"根底"が断以され